

教会、この地とともに ⑤7

ちがさきひがし
茅ヶ崎東教会

み言葉に聴き続ける教会

茅ヶ崎東教会小会

伝道所から教会へ

先の戦争の時、ここ湘南の地にも焼夷弾や機銃掃射による空襲があった。その戦争終結から間もない1945年11月11日に、一人の篤信の姉妹の熱い祈りにより、日本基督教団（平塚）富士見町教会小和田伝道所が開設された。これが現在の茅ヶ崎東教会の前身である。経塚清司教師、柴崎二郎教師が牧され、1951年教団を離脱し、日本基督教会茅ヶ崎小和田伝道教会となった。その頃礼拝出席は平均16名、現住陪餐会員32名、会員45名と記録されている。1954年、柴崎二郎牧師が辞任され、蓮見和男牧師が就任、13年間教会の基礎を据え、教会形成に力を注がれた。その頃の課題は会堂建築で、加藤貞枝姉の土地124坪を譲り受け、教会員はバザーや物品販売など知恵を絞って献金した。伝道の中心は家庭集会で、その集会から婦人たちが多く受洗して会員となり、婦人会が教会推進の力となった。1962年教会建設、1967年には礼拝出席66名、現住陪餐会員75名、会員130名、日曜学校60名であった。

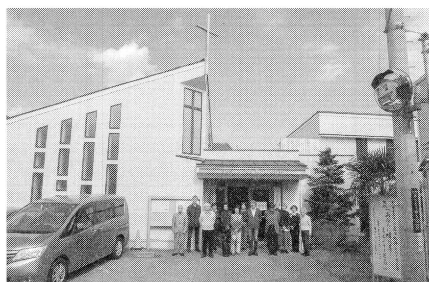
教会とは何であるかの確認

1967年、蓮見和男牧師は辞任、桑原昭牧師が着任され、マルコによる福音書の講解説教により、み言葉に聴く礼拝こそが教会の生命であり、存在の根拠また目的であることを確認した。1969年1月教会名は茅ヶ崎東教会に変更された。同年礼拝出席74名、日曜学校66名となって、礼拝堂と分級室を増改築した。1976年、大森、蒲田御園、茅ヶ崎東の三教会で、大和市に伝道所を開設することになり、1982年12名の会員を送り出して1983年に大和伝道所が開設された。2003年、礼拝出席60名、現住陪餐会員69名、会員106名、日曜学校8名であった。

この年、桑原昭牧師は36年間の牧会の後辞任、五十嵐喜和牧師が着任された。2010年伝道開始65年記念礼拝には蓮見和男教師・幸恵教師を迎え、教会の歩みを振り返ることができた。



1957年旧会堂献堂式



2022年11月新教会堂 祈禱会の後で

新会堂建築

阪神淡路大震災の後、教会堂の耐震強度が問題となり、2007年総会で教会堂の将来について話し合い、以後検討を重ね2010年教会堂建築準備委員会、2011年には教会堂建築委員会を設置。2012年「新会堂建築基金」を開始、柏木教会大橋義夫長老のお力で鶴沼集会所を売却、同教会田中正美元長老の助言を戴きながら、2013年大岡山建築設計研究所に設計監理委託、2015年大明建設と契約を結び、春には定礎式、棟上げ式を行って伝道開始70周年となる11月に竣工。2015年12月6日、献堂記念礼拝とオルガンコンサート。翌

2016年2月に献堂式を行った。この間、礼拝には近くの幼稚園を、聖書研究祈禱会と備品置き場には民家を、牧師宿舎としてはアパートを借りて、「旅の途上にある教会、仮住まいの身」を感謝しつつ集会を守り続けた。この新会堂建築は、教会員の祈りと思い一つにした事業でもあり、また私たちが教会内外の多くの方々の祈りと献金に支えられていることを知った恵みの時でもあった。

新たな歩みへ

2017年3月、五十嵐喜和牧師は14年間の牧会の大半を、会堂建築の苦楽を教会員とともにされた後、西経堂伝道所へ転任、4月には住谷眞牧師が着任された。聖書協会共同訳聖書新約部門の翻訳者兼編集委員である住谷牧師から、新共同訳と異なる訳語の解釈や研究論文の解説などを通して、聖書を深く読み取り、聴き取ることの大切さを学びつつ、2022年は伝道開始77年である。振り返ると戦後間もない混乱の時期に伝道が始まり、教会の歩みのそれぞれの時代に牧師が遣わされ、伝道と教会形成がなされてきた過程を一筋に貫いてきたのは「み言葉に聴き続ける教会」であった。歴代の牧師に感謝するとともに、苦難の中にも祈りをもって教会を支えたかつての長老、執事、会員を覚える。天にある方々とともに礼拝しつつ、この教会が地域の人々に神様の愛と赦しの恵みを伝え続けていくことを願っている。